

2023年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	法学部(法律学科)
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生配当「法学入門演習」について（受講の有無、受講した感想、受講しなかった場合にはその理由についてなど） ・1年生配当の専門科目について（講義形態、講義内容、受講環境についてなど） ・法曹志望者に向けた法律学科の教育について（法曹コースに関する内容を含む）
今後の対応	・FDカリキュラム委員会での検討課題として取り上げて、今後の対応を議論する。
対応策の実施時期	・FDカリキュラム委員会は、年4回開催されており、今年度は残り2回で取り上げて検討を行う予定である。
学部／概要	法学部(国際政治学科)
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際政治への案内」について ・「国際政治ワークショップ」について ・「OSP」について
今後の対応	履修済み学生から出た、各科目の受講前の印象（含認知度）、各科目の内容、評価方法などについての感想や意見を踏まえた上で、学科内で今後の科目開講方法や情報公開について検討を続けます。
対応策の実施時期	すぐに改善できる部分については2024年度から、さらに検討が必要な部分については2-3年を目処に対応します。
学部／概要	文学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部の3つのポリシーと教育目標について ・コロナ後の授業実施方法やカリキュラムのあり方について ・コロナ後の課外活動や人間関係の構築について
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのポリシーと教育目標について、今後も文学部HP等での掲載を継続し、周知を図っていく。 ・対面授業においてオンライン回を設ける場合、それによってどのような教育効果が見込めるかをよく確認し、学生にも説明する。 ・英語の発展的プログラムについて周知を図っていく。情報科目の敷居を下げるよう努める。語学教育やカリキュラム概要に対する要望については、今後、ILACと連携しながらカリキュラム改革に役立てていく。 1年次のキャリア教育については、キャリアセンターとも協力しながら方策を検討する。『履修の手引き』については、学生が使いやすいように体裁を変更した。引き続き学生の利用環境に配慮しつつ改善を図っていく。 ・教学企画室やボランティアセンターの催し、Gラウンジなど、授業やサークル・部活動以外にも交友関係を築く機会があることを学生に周知する。 対面授業が友人を作る大切な機会であることも、授業運営においては心得ておく必要がある。
対応策の実施時期	2024年1月24日の文学部定例教授会にて対応。
学部／概要	経済学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド授業について ・専門教育科目について ・1年次と2年次(以降)の教育内容について ・入門ゼミについて ・演習(ゼミナール)について ・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについて ・経済学部の4つのポリシーについて知っているか ・経済学部の4つのポリシーが学生に浸透しているか
今後の対応	今回寄せられた意見を学部教員間で共有するとともに、カリキュラムマップおよびツリーの周知等を通じて、積み上げ学習効果等における今後の改善に活かしていきます。
学部／概要	社会学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学社会学部を志望した理由と、他に考慮した進学先 ・合格者に対し、学部についての情報として何を提供しておくべきか ・入学前の日本語学習の経歴（年数、場所） ・本学の日本語教育に関する要望 ・社会学部の初年次の科目に関する要望 ・社会学部の専門科目に関する要望 ・留学生同士および日本人学生との交流について（ランゲージエクスチェンジの機会など） ・卒業後の進路の希望と大学に期待する支援について ・居住環境、通学、アルバイトについて ・社会学部のカリキュラムについて ・社会学部の3つのポリシーについて
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育のあり方について科目担当教員と検討する。 ・留学生同士で就職活動の体験を共有させるなど、留学生がスムーズに就職活動を行えるための支援について、キャリアセンターと検討する。 ・留学生同士や日本人学生との交流のあり方について、多摩事務課グローバル担当と連携しながら検討する。
学部／概要	経営学部
モニタリングした内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミの制度 2. 対面、オンライン、オンデマンド各授業の満足 3. 就職活動とキャリアセンターの活用 4. ポリシーの認知と理解 5. 大学へのリクエスト
今後の対応	<p>第1に、情報過多により、学生に必要な情報が伝わっていないケースがある。 ⇒学生自身で情報整理する必要があることをガイダンスで説明する。</p> <p>第2に、学生は、オンライン授業&オンデマンド授業に慣れきって受け身の姿勢になっている。 ⇒教員は、学生への質問や対話を通じて、積極的な学びの姿勢を構築いたします。</p> <p>第3に、ILAC科目が重要であることを学生に理解してもらう必要がある。 ⇒ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーについて、学生向けガイダンス等でその周知と理解を図ります。在学生に対しても、経営学部HPでの掲載を継続しつつ、授業の中でも、教養科目が経営学にいか必要であるか、将来に役立つかを伝えていきます。</p> <p>第4に、このたびの学生の意見や提案を無駄にせず活用していきます。 ⇒そこで、執行部会議や教学問題委員会等で問題点を共有し、改善のための具体策を検討し、今後の講義運営やカリキュラム改編等に活かしてまいります。</p>
対応策の実施時期	今後、検討いたします。

2023年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	国際文化学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学時の初年次教育（大学の学びに必要な基礎教育）、アカデミックスキルズ（専門的な学習や研究に取り組むにあたっての能力）についての国際文化学部での取り組みについて ・SA（Study Abroad）、派遣留学、SJ（Study Japan）、海外フィールドスクールなど、国際文化学部における留学制度について
今後の対応	<p>2020年から今年度まではコロナ禍への対応による教育環境の変化が大きかったため、コロナ以前の状態に急速に戻すことはむしろ混乱を招くと考えている。そのため、今回議論となった初年次教育、留学や学部イベントの課題に関して拙速な対応は避けたいと考えており、まずは教授会で問題点を共有し、次年度以降に修正可能な部分への検討を始めたい。</p> <p>初年次教育に関しては2022年度からの方針に従い、アカデミックスキルズの学習内容のベースを「法政大学学習支援ハンドブック」とし、そのオンライン教材を自習することを学生に周知する。また、初年次に限らず各科目群の概論科目やゼミ生に対する卒業研究指導など、4年間通じて各段階で少しずつ定着させる。</p> <p>SAについては学生のサポート体制や留学費用の高騰などが問題となっているが、今年度実施した各留学プログラムについて検討し、渡航の前後や留学中の学生対応を中心に、学生からの意見を踏まえて議論をスタートさせたい。</p> <p>コロナ禍の中で中止もしくはオンライン開催となっていた各学部イベントの再開については、今年度より対面開催をスタートさせている。まだ参加者がそれほど多くないため、学生の企画参加を促すとともに開催の周知に力を入れる。</p>
学部／概要	人間環境学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人間環境学部の授業と大学生活 ・人間環境学部のポリシー・カリキュラム ・人間環境学部の雰囲気、イメージ、多様性、国際化
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・人間環境学部の各種ポリシーについて、学生の認知度が低いことがよくわかりましたので、各種機会に学生に周知したいと思います。 ・コロナ禍の間、フィールドスタディの定員やプログラムの数が少なくなりました。最近は回復してきておりますが、その影響が尾を引いており、申し訳ありません。改善してゆきます。 ・留学制度の充実が必要です。また、留学に興味がありましたら、SCOPE（英語学位プログラム）の授業を受講することもお勧めです。 ・仕事を辞めて入学したRSP生もおり、再就職のサポートがあるとRSPの魅力の一つになるとの意見がありました。検討したいと思います。 ・コロナ禍と入学時期とが重なった高学年の学生ほど、不満を抱えつつ大学生活を送ってきたことがわかりました。 <p>コロナ禍が始まったころ、学生の不安を軽減しようと人間環境学部は幾つかの企画を実施しましたが、より効果的な対策を考え、類似のインシデントが発生したときに備えたいと思います。</p>
学部／概要	現代福祉学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業所要単位について ・カリキュラムについて ・入試制度・入学時の学力について ・科目履修・各種授業科目について ・大学・学部の留学制度について ・各種事務手続きについて ・多摩キャンパスの施設・設備、通学環境について
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得と留学をして4年で卒業するための方法を公開してほしい。 →「福祉コミュニティ学科、臨床心理学科ともに、資格取得に必要な科目の履修は年単位となるため、留学をする場合は追加の年度が必要となります。」とホームページに公開する。 ・国内研修制度はとて面白い制度だと思う。認知度が低いようなので、ガイダンスやweb掲示板で周知を強化すると思う。 →国内研修制度の目的、利用方法をガイダンスやホームページで周知する。また、和ちゃん奨学金と一緒に取ることが可能であることも周知する。 ・OB訪問する際に公開される連絡先が、新卒から5年までのOBに限られているが、もう少し多様な立場の人からの話が聞きたい。 →「就職活動についてOB・OGに相談する際は、キャリアセンターの他、現代福祉学部の同窓会を積極的に活用してください。詳しくは以下を参照してください。 https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/sotsugyosei/53290/?auth=9abb458a78210eb174f4bdd385bcf54」とホームページで周知する。 ・OB訪問する際に公開される連絡先が、新卒から5年までのOBに限られているが、もう少し多様な立場の人からの話が聞きたい。 →「就職活動についてOB・OGに相談する際は、キャリアセンターの他、現代福祉学部の同窓会を積極的に活用してください。詳しくは以下を参照してください。 https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/sotsugyosei/53290/?auth=9abb458a78210eb174f4bdd385bcf54」とホームページで周知する。 ・ラウンジのコンセントを増やしてほしい。ペーパーレス化のため、電子媒体で資料を見ながら授業を受けることが増えているが、充電が切れてしまう。 →「事務課でモバイルバッテリーの貸し出しを行なっています（8台）。」とホームページで周知する。 ・授業の空き時間に長時間過ごせる場所があるといい。ラウンジは、15時にもなると寒い。 →「授業の空き時間には、ラウンジ、図書館のクリエイティブルーム、グループ視聴覚コーナー、エッグドームなどを有効活用してください。」とホームページで周知する。
対応策の実施時期	全てホームページでの周知となる。
学部／概要	情報科学部
モニタリングした内容	<p>カリキュラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究、大学院での学修に対して役に立った科目 <input checked="" type="checkbox"/>卒業研究、大学院での学修に対してあったらよかったと思う科目、分野 <input checked="" type="checkbox"/>進路決定に対して役に立った科目 <input checked="" type="checkbox"/>進路決定に対してあったらよかったと思う科目、分野 <p>を調査した。また、学修に関して、その他の意見も聴取した。</p>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング言語や開発ツールなどについては、リクエスト集中講義を効果的に利用する ・学部の設備の周知などについては、ガイダンスの機会を活用する ・優秀な課題の共有については、既に試験期間に発表会を行っている科目もあるので、そのような試みを参考にする ・オンデマンド・集中講義などの形態を活用する ・大学院も含めて、カリキュラムの内容を精査し、改善を目指す
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>来年度に学則改訂を行って1単位のリクエスト集中講義科目を設置する <input checked="" type="checkbox"/>学部の設備の周知などについては、来年度のガイダンスから行う ・定期試験、課題のフィードバックは今年度の秋 semester から随時行う
学部／概要	キャリアデザイン学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の英語教育履修後の所感（期待した内容、学習効果の実感など） ・学生の英語学習の目的・目標 ・学部の英語教育に関する要望 ・大学生活における英語科目以外での英語の活用 ・学部における英語教育・英語学習に関する意見交換
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別のプログラムの周知に努める ・今回の対象者が新型コロナ初年度の入学者であり例年とは授業の実施方法、内容が異なったことの影響もあると思われるが、今後も授業の実施内容と学習効果をモニタリングしていく ・カリキュラムの中での英語科目以外での英語の活用機会を検討していく

2023年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	デザイン工学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市ヶ谷田町校舎1F各スタジオ教室の環境改善に向けた対策 ・学生と教員（大学）の連絡方法に関する課題と円滑化 ・学内（周辺含む）での食事環境について ・デザイン工学部の4つのポリシーとその適切性 ・その他自由意見
今後の対応	スタジオ教室や製作関連スペースについては、関連部局とも連携して清掃整理整頓がしやすい仕器や設備への更新を具体的に検討していく。また、B1F調理スペースや貸与PCのあり方についても関連部局と協議を始める。その他、入試制度や教学事項等については、意見を参考に教授会等での議論をすすめていく。
対応策の実施時期	いずれについても可及的速やかに対応していく。
学部／概要	生命科学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部の3つのポリシーについて ・カリキュラムマップについて ・TA、ラーニングサポーター制度について ・英語教育について ・情報教育について ・実験・実習科目について ・オンライン授業について ・研究室配属について ・入学前教育について ・リメディアル教育について
今後の対応	生命科学部の3つのポリシーやラーニングサポーター制度については、ガイダンス等を通じて、学生への周知を図る。英語教育や情報教育については、関連する委員会等との連携を深め対応する。入学前教育やリメディアル科目については、高大連携委員会や教養・専門教育連携委員会で改善策を検討する。
学部／概要	グローバル教養学部（GIS）
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目について（Required courses） ・科目の選択について（Elective courses） ・授業の質について（Regarding the quality of education at GIS） ・セレクトションについて（Regarding course selection） ・Seminarについて（Regarding seminars） ・留学について（Regarding studying overseas） ・就職支援について（Regarding careers support）
今後の対応	<p>The opinions shared by the students will be discussed by the faculty and be the base for improvement as much as possible.</p> <p>(1) We will continue to aim to reduce differences in the content of Academic Skills Subjects among instructors. Presentation and Public Speaking is currently planned as a new required Academic Skills course for all incoming students, as is an adjustment to the Writing Skills classes.</p> <p>(2) We will continue to inform students about the necessity of selection and seek their understanding as we move toward making adjustments to streamline the process as much as possible.</p> <p>(3) Regarding the study abroad system, we will consider ways to improve the program and better connect students with those who have studied abroad to share their experiences.</p> <p>(4) The seminar selection process will be discussed with the faculty with the aim to provide more opportunities for getting the experience of sampling seminars.</p> <p>(5) We will continue to strengthen career education within the faculty and offer more career guidance to better suit the evolving needs of the students.</p>
学部／概要	スポーツ健康学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法（主に対面授業等の授業形態）について ・ディプロマポリシーについて ・カリキュラムポリシーについて ・入試の在り方 ・実験、実習、実技のアクティブ科目について ・食堂について ・その他、学部への要望について
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法（主に対面授業等の授業形態）について 実験・実習・実技・演習等の科目については、学習効果という点で対面を基本とした授業を展開していく。一方で、講義科目については、学生の要望も捉えながら、14回のうち何回かをオンラインにするなど工夫していく。 ・ディプロマポリシーについて <スポーツ健康学部 ディプロマポリシー> 1. 豊かな社会性と人間性を支える広い教養を身に着けている。 2. スポーツ健康学の学問内容及び方法を理解している。 3. 自ら設定した課題について、スポーツ社会科学・健康科学・スポーツ科学のいずれかの学問領域の研究手法を用いて、考察することができる。 4. スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。 5. 社会における自分の役割を自覚することができる。 6. スポーツ健康学の知を持って地域社会のニーズに応えることができる。 7. 生きた文化や生きた社会を創る事に寄与できる。 8. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に伝えることができる。 <p>以上のディプロマポリシーについて、1、3については総じて身に着いてきているという声があったが、所属コースの特徴によって、6、7、8に違いが現れた。特に座学（講義科目）の多いコースでは、8が弱いとの意見があったため、積極的に他者との交流が図れる場をつくることや、学外での活動を奨励し、それらを評価していく方策が求められると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシーについて 学部の掲げるディプロマポリシーを達成するために、5つの科目群（視野形成科目群、専門基礎科目群、専門基幹科目群、専門科目群、専門演習）を配置し、系統的学習を促進しているとの説明を行った。 対象学生は、段階的に専門性を高めていく設定については肯定的に捉えていた。専門科目や専門演習については、小規模学部特有のメリットとして、教員からの指導の充実や学生同士のつながりの深さなどを挙げた一方で、履修人数が少なく刺激が少ないという指摘も出た。各授業において、学外での実習・フィールドワークを増やすことや、同様の専門を追究する他大学学生との交流の場を設けるなど工夫していきたい。また、体験学習としての海外演習に興味はあるが費用が高いという要望にも応える方法はないか、検討していきたい。 ・入試の在り方について 一般入試に加え、AO入試など多様な入試経路を設定することは、入学後に学生同士が刺激し合う学びの場として基本的に重要であると捉えている。「スポーツ・健康」という括りの中での学問体系では、文系と理系が併存しており、双方からのアプローチが必要となる。モニター対象学生からも、「スポーツを全般として学びたい人にとっては、今の入試の在り方は良いし、コース横断型のカリキュラム構成も魅力的だ」という声があった。一方で、入試の在り方として理系か、文系かがわかりにくい。だが、例えばヘルスデザインコースに所属すれば（2年次以降）、理系が得意でないも単位修得は厳しいという意見もあった。これらへの対応とし ・実験、実習、実技、演習科目の在り方について 本学部では、実験、実習、実技、演習科目の設定は多く、モニター対象学生からも、現状維持で大きな問題はないという意見が出た。強いていえば、コーチングという点からは、マイナーなスポーツの実習や、障害者スポーツ（例えばボッチャ）等を学ぶ実習があっても良いのではという意見や、コースによっては学年が進むにつれて座学が多くなるので、当該コースにも実習・実技系を設定してほしいという意見もあった。これらについては、全体のカリキュラム構成をみつつ、今後検討していく。 ・食堂について 美味しい、メニューが多様（3種類で量も選べる）、栄養面も考慮されている等、肯定的な意見が出された。一方で、授業期間外や朝食・夕食の設定、現行の昼食時間の延長や売店の充実等の要望も出された。これらの要望について、業者への申し入れなど検討していく。 ・その他の要望 これまでも触れたとおり、本学部では実験・実習・実技・演習科目が多いが、教育環境を保つうえで履修者に「受講制限」をかけるケースもある。それに対して、年度初めに後期分も含めて履修登録を行うのではなく、後期分は後期に履修登録できるようにしてほしいとの要望が出された。これについては、後期になってから「履修抹消・追加」ができるようになっているが、就活・インターン等にもある程度対応できるよう、柔軟な在り方を検討していく。 また、事務課の窓口を4限終了の17時半まで延長してほしいとの要望も出されたが、事務体制についても検討していく。 また、駐輪場の整備についても、安全管理につながる問題として検討していく。
対応策の実施時期	対応範囲が種々あるため、可能な点から順次対応していきます。

学部／概要	市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC)
モニタリングした内容	1. 教養教育を軸とした市ヶ谷校区8学部の連携 ・学際化と文理融合について ・初年次教育について 2. 大学における教養教育の意義 ・卒業までに必要な教養科目の単位数について ・ILAC科目と学部専門科目のコラボレーション授業について
今後の対応	今回の学生モニターから得られた学生の多様な視点からの意見は、適宜、精査・参照しつつ、文理融合を視野に入れた学際的な授業展開や初年次教育の充実等を図るための取り組みの可能性を探れるよう、ILAC運営委員会等を通じて議論のきっかけを作る。
対応策の実施時期	未定
学部／概要	小金井リベラルアーツセンター (KLAC)
モニタリングした内容	・履修・カリキュラムについて ・各科目の印象について (人文・社会・自然科学系、スポーツ健康科学系、選択語学系(英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)、リテラシー系、数学系、理科系) ・対面授業への復帰について(オンライン授業の併用 状況など) ・語学教育について英語必修授業の内容など ・サポートについて履修案内、TA、ラーニングサポーターなど
今後の対応	今回寄せられた意見を各分科会の専任教員で共有し、理工学部・生命科学部の関係部門とも連携して、改善策を検討する。 好評だった学習サポートについては、引き続き広報のさらなる充実を図りたい。